



職種定義 造園

職種37



ワールドスキルズインターナショナルは、その競技運営委員会の決議により、またその憲章、運営規則および競技規則に基づいて、技能五輪国際大会の本職種における下記の最低要件を承認している。

本職種定義は以下の内容で構成されている。

1	序文	3
2	ワールドスキルズ職業基準 (WSOS)	5
3	評価戦略と仕様	13
4	評価設計と実践	14
5	競技課題	18
6	職種管理および情報伝達	21
7	職種限定の安全要件	23
8	材料および機材	25
9	職種限定規則	27
10	エキスパートの知識と経験	28
11	来場者とマスコミに対する職種の広報活動	29
12	持続可能性	30
13	産業界との協議に関する情報	31
14	付録	32

1 序文

1.1 職種競技の名称と説明

1.1.1 職種競技の名称

造園

1.1.2 関連する職務または職業の定義

造園家の主要な役割は、庭園、風致地区の設計、設置と維持管理業務である。造園家は、顧客と面談し、提示されたプロジェクトについて議論し、そのプロジェクトを実現させるための助言やガイダンスを提供し、顧客の要望を注意深く解釈する必要がある。

プロジェクトの内容は様々であり、個人の庭、公共の庭、公園、公共のオープンスペース、スポーツやレクリエーション会場、運動場、その他の風致地区などを含む。造園家は顧客の要求を満たし、都市計画規制を遵守しつつ、完成したプロジェクトと地域全体がどのように調和するかや、庭園スペースと都市環境がどのように相互に作用するかについてのビジョンを持ちながら革新的なスキームを作成しなければならない。

造園家は初期段階での相談やデザインから、設置に至る全過程、プロジェクト管理と設置チームの監督、庭園の発展・成熟に伴う継続的な維持と開発に関する助言やガイダンスの提供まで、プロジェクト全般に関わっている。

土壌の種類と構造、地理、気候条件、想定される利用の仕方に関してその土地の長所と制限を考慮したバランスの取れた計画を作成し、実施するためには、植物や樹木の知識を含めた、ハードスケープ（堀や歩道）とソフトスケープ（植栽や生垣）の両方の詳細な知識が必要である。ハードスケープや建設土木に関する知識やスキルも大変重要である。電気設備の設置や、配管工事、灌漑設備等関連するスキルも、プロジェクト全体を持続可能で永続的なものとするために必要である。

造園家は、さまざまな植物、自然の資源、その他の材料を利用している。そのため、彼らは製作、ロジスティクスの持続可能性や自然環境とそこに住む野生生物に対し造園が与える影響の両方の観点から、そのような材料が環境に与える影響を認識しなければならない。

庭園や風致地区は、レクリエーションやリラクゼーション用の美しいエリア、密集した都市環境のオープンスペース、あらゆる年齢や才能の人々に適した空間、そしてコミュニティ活動やコミュニティの団結を支援する施設を提供することによって世界中の多くの人々の生活の質を向上させている。

造園家には、環境問題の解決や既存の居住地域の再活性化に関わる、世界を市場に据えた多くの機会がある。

1.1.3 チームの選手数

造園は2人の選手を1チームとするチーム職種競技である。

1.1.4 選手の年齢制限

選手はその技能競技大会の開催年において22歳以下でなければならない。

1.2 本書の位置づけおよび重要性

本文書は、この職種競技で競うために必要となる基準、また、競技を運営する上での評価指針や方法と手順に関する情報を含む。

各エキスパートおよび各選手は、この職種定義について理解しておく必要がある。

「職種定義」の異なる言語間の解釈の相違に際しては、英語版が優先される。

1.3 関連書類

この職種定義は職種限定の情報のみを含むため、以下のものと共に用いること。

- WSI-倫理・行動規範
- WSI-競技規則
- WSI-ワールドスキルズ職業基準の枠組
- WSI-ワールドスキルズ評価戦略
- WSI-本文書に記されているオンラインの情報源
- ワールドスキルズ安全衛生および環境に関する方針と規制
- ワールドスキルズ基準評価ガイド（職種限定）

2 ワールドスキルズ職業基準 (WSOS)

2.1 WSOSに関する一般的な注意事項

WSOSは、技術的および職業的能力における国際的な最良事例を実証する知識や理解および特定の技能について詳述している。これらは職業に特有のものであると同時に、横断的なものでもある。これらは共に、業界や企業においてその関連する職務または職業が何を意味するかについて、グローバルに共有された理解を反映したものでなければならない(www.worldskills.org/WSOS)。

職種競技はWSOSの記述に従い、国際的な最良事例を可能な限り反映することを目的としている。したがって、WSOSは、職種競技のために必要とされる訓練や準備についての指針でもある。

職種競技において、知識や理解の評価は実技の評価を通して行われる。知識や理解力のテストは、それらを覆す理由が無い限り、別途行うことはない。

WSOSは、見出し付きのセクションで区切られ、参照番号が付いている。

各セクションで合計点における割合（パーセント）が定められ、WSOSに占める相対的重要性が示されている。これはしばしば「重要度」と呼ばれる。評点をすべて合計すると100になる。重要度は、採点スキーム内の評点の配分を決めるものである。

競技課題を通して、採点スキームは、WSOSに記載されている技能のみを評価する。それらは、職種競技の制約内で可能な限り包括的にWSOSを反映する。

採点スキームは、実際に可能な範囲で、WSOS内の評点の割り当てに従う。WSOSで規定されている重要度を歪めない限り、最大5%までの変動は許容される。

2.2 ワールドスキルズ職業基準

セクション		相対的重要性 (%)
1	作業の構成と管理 各自は、以下を知り理解する必要がある： <ul style="list-style-type: none"> • いかにして庭をその環境に適合するよう設計するか、また規模、造園環境、位置、気象条件および物理的環境についてはどのような制約があり得るか。 • 庭は生きた素材を用いたダイナミックで変化する環境である。 • 地方計画や建設規制、また、それらがどのように造園術に関係し、影響を与えるか。 • 庭やオープンスペースが計画され造られる都市や農村環境の範囲 	10

セクション		相対的重要度 (%)
	<ul style="list-style-type: none"> • 造園に関わる持続可能性の問題、特に材料の調達と造園が環境や野生生物に与える影響に関する問題 • 安全衛生および環境に関する法的要件および慣行 • 持続可能性と材料のリサイクルの重要性 • 造園家が使用する工具の種類と用途およびメンテナンス • 造園家が使用する材料の種類 • 定められた予算内で仕事をすることの重要性 • 作業を行うことの重要性 • 複雑な技術的図面と設計図を読み解く方法 • 造園に関連する数学的計算と幾何学 • 寸法、立面図、空間認識 	
	<p>各自は以下を実施できること：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 適切な工具を安全に正しく使用する（例えばハンマー、のみ、卓上石切鋸、と手持ち電動工具）。 • 現場の清潔さと安全を確保する。 • 仕事のパターン、流れ、ロジスティクスを整えておく。 • 人間工学、安全衛生、個人の防護を配慮する。 • 健康とウェルビーイングの実現に向けた作業過程を適用する。 • 複雑な技術図面を解釈し、図案を描く。 • 資材（例えば石、木、植物、その他の天然資材）の調達 • チームの一員として、他の職業の人たちと効率良く作業を行う。 • 合意されたタイムスケジュールと予算内で造園プロジェクトを完成させる。 	
2	顧客サービスとコミュニケーション	5
	<p>各自は、以下を知り理解する必要がある：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 効果的かつ積極的な顧客との関係の重要性 • チームワークや他業種との良い協調関係の重要性 • 正式な、または非公式なコミュニケーションの方法とその応用 • ICTを活用したコミュニケーションや作業プロセスのサポート 	
	<p>各自は以下を実施できること：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 顧客の指示事項に従う。 • プロジェクトの設計・作成と予算、計画や環境上の懸念といった制約について、顧客に助言とガイダンスを提供する。 • 継続的なメンテナンスに関するアドバイスとガイダンスを提供する。 • 問題点の解決 	

セクション		相対的重要度 (%)
	<ul style="list-style-type: none"> 顧客に優れたサービスを提供する。 作業プロセスや顧客サービスにさまざまなICTを活用する。 	
3	庭園のデザインとデザインの解釈	10
	<p>各自は、以下を知り理解する必要がある：</p> <ul style="list-style-type: none"> 好ましい庭園デザインの原則 庭園デザインの国際的、文化的な特徴 都市や市街地の庭園やオープンスペース、また、都市生活を支え、人々の生活の質を改善させる役割を持った有機体が環境に与える影響 思索のためや心の休息の[s4] [KI5]場[s6]としての庭の利用 ハードスケープ（構造物による造園）、配管工事、電気装置の実用性 様々なスポーツ・サーフェース、その用途や設置 遊び場、スポーツエリア、地方公園、都市公園、レクリエーション場などの計画が必要な公共オープンスペースの種類 土壌の種類、それが植物や灌木、木々を支えるしくみ 庭園デザインに影響する環境要因（例えば天気、地形、面する方位、立地など） 庭やオープンスペースについて想定される利用方法または利用者、また、そうした利用方法あるいは利用者がどのように設計に影響するか 現代の庭園デザインの傾向 気候変動が造園の役割と範囲に与える影響 	
	<p>各自は以下を実施できること：</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客の指示事項に合わせた庭園の設計 環境の特徴を反映し、地形、立地、予想される気象条件、土壌の質、自然環境などを最大限に活かした庭園の設計 想定される使用者のニーズに合った庭園やオープンスペースの設計 環境への配慮と持続可能性に関する設計要件を特定し、それを満たす。 	
4	石、厚板、プレキャスト部材の成形と配置	15
	<p>各自は、以下を知り理解する必要がある：</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象となる各構造の種類と個々の造園資材が最も活かされる方法に応じて要求される種々の設置方法 利用可能な石、厚板、花崗岩、プレキャスト部材の種類や用途 セメント、接着剤、支持材の種類や用途 	

セクション		相対的重要度(%)
	<ul style="list-style-type: none"> • 水平、直立、角度や面積を計算し計測するために使用される機器 • 正確性の重要性 • 庭園の設計と施工に適用すべき数学の原理 • ハードスケープ素材の供給元 	
	<p>各自は以下を実施できること：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 完成した庭園などの構造的安定性を確認するために地盤の安定性を評価する。 • 土木用工作機械（地ならし）と掘削機材、または手工具を用いて碎石層、基礎づくりのため表面をならす。 • 碎石層の要件を計算し、計画した場所に設置する。 • 様々な層をなす基礎材を用いる等により、様々な構造の骨材ベースを設置し、規定通りに隙間なく埋める。 • 掘削ズリ、ガレキを持続可能な方法で処分し、可能であればリサイクルし、環境に配慮をする。 • 図面と寸法を読み取り、計画図から施工の規模を見積もる。 • 天然または人工の材料を要求されたサイズおよび/または形状に切断し、形づくり、切削する。 • 規定通りに単一の製造物を配置する、および/または複数の製造物を組み合わせる（階段、壁、通路、中庭、小道など） • ルース法・フィット法の両方を用いてハードスケープを作り上げる。 • 適切なセメント、接着剤や支持材を正しく最も適切な状況で使用する。 • 指示に従い、所望されたハードスケープを作り上げる。 • 記載寸法を実寸大に捉え直し、適切な器具を用いて材料に切断用目印を付ける、またレイアウト用に張り糸で現場に目印をつける。 • 規定通りに、水平面や斜面上に構造要素を設置する（舗道、階段、デッキ、ターフ（芝土）と「平面」のエリア） • フェンスの支柱などの構造要素を垂直方向（鉛直）に設置する。 • 仕上げた表面について勾配の操作を行い、斜面上に地上排水を作る • 周囲の環境や他の生き物を保護する。 • 材料の保管、取扱い、移動、安全に関し、適切なロジスティクス戦略を適用する。 	
5	材料の切断やハードスケープ素材以外による垂直・水平構造物の組み立て	18
	<p>各自は、以下を知り理解する必要がある：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 図面/仕様の指示に従い、材木/木の資材を切断し、継ぎ合わせる（特定の角度、角切り、斜角、留め継ぎなど） 	

セクション		相対的重要度 (%)
	<ul style="list-style-type: none"> • 水平、垂直、角度、面積等を計測、計算するための機材 • 精度の重要性 • 庭園の設計と施工に適用すべき数学の原理 • 木材の種類と庭園用構造体でのその用途 • 庭園で使用される材木の長期メンテナンス • 庭園の構造体で使用される金属フレーム、ガラス、安全用表面材などの資材の種類 	
	<p>各自は以下を実施できること：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 計画や寸法を読み、計画から施工の規模を見積もる。 • 測定値を実寸大で考え、適切な器具を用いて材料に切断用目印を付ける • か、レイアウト用に張り糸で現場に目印を付ける。 • 木材や木片を正確に計測し、指示通りに切断する。 • 材木/木片部材を、留め金具（例えば釘、ネジ、ボルト、ラグ、ブラケットや取り付け金具）で組み立てる。 • やすりがけ、スムージング、染色その他の特別な処置を行って材木/木片の組み立て品を仕上げる。 • 指示通りに、水平方向や斜面に構造部材を設置する（舗道、階段、デッキ、芝土および「平面」のエリア）。 • フェンスの支柱などの構造部材を垂直方向（鉛直）に設置する。 • 仕上げた表面について勾配操作を行い、斜面に地上排水を作る。 • 遊具、バーベキュー、ガーデンファニチャー、小屋、サマーハウスなどの屋外/庭園用の機器についてアドバイス、調達、設置をする。 • フェンス、境界ユニット、ゲートの設置 • 最終用途、周辺の状態および持続可能性を考慮して、最適な環境下で最良の材料を利用する。 	
6	下地、土壌と根覆い（マルチ）	5
	<p>各自は、以下を知り理解する必要がある：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 様々な型と組成の土壌や植物生育培地 • 土壌の特徴や用途を決定するための評価や検査方法 • 様々な種類の土壌や培地が植栽に与える影響 • 土壌添加剤の種類と用途 • 泥炭などの天然物の使用による環境への影響 • 土壌自体をひとつの生命体と考えた生息環境の質 • 様々な土壌添加剤、植物生育培地、根覆い、堆肥の機能 	

セクション		相対的重要度 (%)
	<p>各自は以下を実施できること：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指示された通りに、植栽のために土壌および/または土質改良剤を使用する。 • 植栽その他の目的のために有機および/または無機の根覆い材料を設置する。 • 土壌型や土壌添加剤に推奨用途を当てはめる。 • 土壌添加剤、植物生育培地、根覆い、堆肥を正しく使用する。 • あらゆる種類の植栽や植林のための正確な土作り • 所定通りに芝を敷き、地ならしし、水平にして土壌エリアを整備する • 芝生の種まき用の土作り • 最善の使用法を決定、評価するための土壌調査 	
7	植栽及び植物（草木）のケア	25
	<p>各自は、以下を知り理解する必要がある：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 植物、灌木、野菜、ハーブ、果物、樹木の分類と植物学的な名称と、それらの最適な使用時期と方法 • 植物の成長と生育、動的な生育環境や庭園デザインに与える影響 • 様々な植物、灌木と樹木に好ましい条件 • さまざまな種類の草や芝生素材とその最適な用途 • 様々な種類の植物、灌木と樹木の維持管理方法 • 植物、灌木と樹木を害する病気や害虫 • 害虫や病気の対処法 • 持続可能で自然に配慮した害虫や病気の対処方法 • 造園で使われる化学製品の安全な取扱い、用途やその保管方法 • 化学薬品の使用に関連した環境要因と持続可能な要因 	
	<p>各自は以下を実施できること：</p> <ul style="list-style-type: none"> • パッケージや保護カバーを取り除き、植物の良好な状態を確保し、植栽に向けて植物や樹木の準備をする。 • 土作りや植栽エリアの整備 • 樹木や灌木の取り扱いと植栽 • 多年生植物、一年生植物、地被植物を扱い、準備した植栽床に植える。 • 選んだ植物を、成長パターンと視覚的な効果を考慮して間隔を空けて植栽する。 • 造園の完成時に植栽エリアが成熟して自然に見えるように設計し、植栽する。 • 作物と鑑賞の両方に使える野菜やハーブを植栽する。 • 継続的な植物の手入れを維持する。 • 指示に従い、ジョイントを使ってソッド/ターフまたは厚板を設置する。 	

セクション		相対的重要度(%)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ターフエリアをローリングまたは平坦化して根塊と土壌を固め、突起や隙間、空間を除去して仕上げる。 ・芝生の種をまく。 ・芝生またはターフエリアに継続的な手入れとメンテナンスを施す。 	
8	造園のテクノロジー（配管、電気、排水及び灌漑）	5
	<p>各自は、以下を知り理解する必要がある：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庭園環境における配管や排水の原理 ・灌漑（給水）システムの原理と種類 ・雨水の集水、蓄水および利用 ・天水桶、貯水や灌漑システムの使用、設置と維持 ・庭園の電気装置の設置の原則 ・電気系・配管系製品の使用、設置や保守のための安全衛生要件と特徴 ・電気系製品、配管系製品の設置と使用に影響を及ぼす法律と特徴 	
	<p>各自は以下を実施できること：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・照明、冷却、音響・熱に関して指示された低電圧配線と構成部品の設置、接続、試験 ・排水管口、排水樹、地下配管や貯蔵タンク等の排水設備を指示通りに設置する。 ・雨水の集水、使用のための設備の設置 ・地中の灌漑システムの構成部品を指示通りに設置、接続、試験し、トラブルに対応する。 	
9	水を利用した仕組み	7
	<p>各自は、以下を知り理解する必要がある：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造園で使用される池、水景施設、噴水の種類 ・水景施設の設置方法と管理方法 ・スイミングプール、温水タブの設置工程 ・池や水景施設用の適切な植栽法 ・水景施設の継続的な清掃とメンテナンスの要件 	
	<p>各自は以下を実施できること：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔軟性のある池の中敷きと既成の池を設置する。 ・水生植物を池や湖に植える。 ・さまざまな水景施設の設置 ・スイミングプールや温水タブの設置 ・関連するすべてのポンプ、配管、清掃システムと電気系設備の設置と点検 	

セクション		相対的重要度 (%)
	・ 水景施設と池の手入れとメンテナンスを続ける。	
	合計	100

3 評価戦略と仕様

3.1 一般的なガイダンス

評価はワールドスキルの評価戦略を用いて管理する。この戦略では、ワールドスキルの評価と採点において遵守すべき原則や技法を規定している。

エキスパートによる評価の実施は、技能五輪国際大会の中核を成している。この理由により、継続的な専門性開発や精査の対象となっている。評価においてより多くの専門性が求められると、採点スキームや競技課題、また競技情報システム（CIS）などの技能五輪国際大会で使用される主要な評価手段において、将来的な使用法と方向付けに影響を与えることになる。

技能五輪国際大会の評価方法は、メジャメント（測定）とジャッジメント（判定）の2つに大きく分けられる。両方の評価方法につき、各評価細目を採点するのにどちらの方法を使用するかについて明確なベンチマークを適用することが、質を保証する上で不可欠となる。

採点スキームはWSOSにおける重要度に従う必要がある。競技課題は職種競技の評価手段であり、したがって、WSOSにも従うものである。CISは、タイムリーで正確な採点の記録を可能にする。CISの精査、サポート、フィードバックの可能性は継続的に拡大している。

採点スキームは、概ね、競技課題の設計過程でその指標となる。その後、採点スキームおよび競技課題は、両者一体となってWSOSおよび評価戦略との関係性を最適化することを保証するため、反復作業を通して設計、開発、および検証される。採点スキームと競技課題は共にその品質およびWSOSとの一貫性を示すためにエキスパートの同意を得、WSIからの承認を求めて提出される。

WSIの承認を得るための提出以前に、採点スキームと競技課題は、その品質を保証し、CISの実効性を確保するために、WSIの職種アドバイザーと連携する。

4 評価設計と実践

4.1 一般的なガイダンス

ここでは、採点スキームの役割と位置づけ、競技課題を通して実施された選手の作業に対するエキスパートの評価方法、ならびに採点の手順と必要事項について記述する。

採点スキームは、それが各職種競技を表す基準と評価をつなぐものであるという点において、つまりそれ自体が世界的な職業を表すという点において、技能五輪国際大会における極めて重要なツールである。また採点スキームは、作業に対する各評価細目の評点が、WSOS中の重要度に応じて配点されるように設計される。

WSOSにおける重要度を反映することにより、採点スキームは競技課題設計のためのパラメータを確立することになる。職種競技の性質やその評価のために必要なニーズによっては、競技課題設計の手引きとして、最初に採点スキームをより詳細に開発することが適切な場合がある。あるいは、最初の競技課題は採点スキームの概要に基づいて考案することができる。この時点より後においては、採点スキームと競技課題は同時に開発するべきである。

2.1では、実行可能な代替案がない場合、採点スキームと競技課題がどの程度までWSOS内の重要度から乖離してよいかを説明している。

誠実性と公平性のために、採点スキームと競技課題は、関連する専門知識を持つ1人以上の独立した者によって設計および開発されるようになってきている。こうした例として、採点スキームおよび競技課題は、職種競技または職種競技モジュールの開始直前まで、エキスパートには見られないようにしている。詳細かつ最終的な採点スキームおよび競技課題がエキスパートによって設計される場合、独立した認証と品質保証のための提出に先立ち、エキスパートのグループ全体でそれらを承認する必要がある。詳細は、規則を確認すること。

エキスパートおよび独立した評価者は、完了前に十分な余裕を持って、検討、検証、および妥当性確認のために採点スキームおよび競技課題を提出する必要がある。また、品質保証のため、そしてCISの機能を最大限に活用するために、設計および開発のプロセス全体を通じて、職種アドバイザー、検討者、および検証者と協力して作業することも期待される。

全ての場合において、採点スキームの草案は、遅くとも技能競技大会の8週間前までにCISに入力しなければならない。職種アドバイザーはこのプロセスを積極的に手助けする。

4.2 評価基準（の項目）

採点スキームの主要な見出しは、評価基準（の項目）である。これらの見出しは競技課題よりも前に、または競技課題と連動して生成される。職種競技の中には、評価基準（の項目）がWSOSのセクション見出しと類似しているものもあれば、異なっているものもある。通常5～9個の評価基準（の項目）がある。見出しが一致する、しないに関わらず、採点スキームは全体としてWSOSにおける重要度を反映しなくてはならない。

評価基準（の項目）は採点スキームを開発する個人（または複数人）により開発され、考案者は競技課題の評価や採点に最適であると考えられる評価基準（の項目）を自由に決定できる。各評価基準（の項目）はAからIまでのアルファベットで示される。評価基準（の項目）、評点の配分と評価方法は、この職種定義内に記載してはならない。これは、評価基準（の項目）、評点配分、そして評価方法がすべて、この職種定義の公開後に決定される採点スキームと競技課題の性質に依存するためである。

CISにより作成される採点集計様式（Mark Summary Form）は、評価基準（の項目）および副基準の

リストを構成するものである。

各評価基準（の項目）に割り当てられた評点は、CISによって計算される。これらは、その評価基準内の各評価細目に付与された評点の累積合計になる。

4.3 副基準

各評価基準（の項目）は一つ以上の副基準に分けられる。各副基準はワールドスキルの採点様式の見出しになる。各採点様式（副基準）は、メジャメントまたはジャッジメント、あるいはその両方により評価され採点される評価細目で構成される。

各採点様式（副基準）には、採点日および採点チームの識別情報を記載する。

4.4 評価細目

各評価細目は、評価および採点される単一の項目を評点とともに規定し、また採点のためのガイドとしての詳細な説明または指示を細かく定義する。各評価細目は、メジャメントまたはジャッジメントによって評価される。

この採点様式は、配点とともに各評価細目を細かくリスト化している。各評価細目の配点の合計は、WSOSの該当セクションで指定された評点の範囲内に収めなければならない。これは、以下に示すようなCISの配点表に表示され、大会開催8週間前の採点スキームの検討時に実施される。（4.1を参照）

	CRITERIA								TOTAL MARKS PER SECTION	WSSS MARKS PER SECTION	VARIANCE	
	A	B	C	D	E	F	G	H				
STANDARDS SPECIFICATION SECTION												
1	5.00								5.00	5.00	0.00	
2		2.00					7.50		9.50	10.00	0.50	
3								11.00	11.00	10.00	1.00	
4			5.00						5.00	5.00	0.00	
5				10.00	10.00	10.00			30.00	30.00	0.00	
6		8.00	5.00				2.50	9.00	24.50	25.00	0.50	
7			10.00				5.00		15.00	15.00	0.00	
TOTAL MARKS	5.00	10.00	20.00	10.00	10.00	10.00	15.00	20.00	100.00	100.00	2.00	

4.5 評価と採点

各副基準にはひとつの採点チームが存在し、ジャッジメントまたはメジャメント、あるいはその両方で評価および採点を行う。同じ採点チームがすべての選手を評価・採点しなくてはならない。これが実行不可能な場合（たとえば、すべての選手が同時に動作を行わなければならない、それを監視していなければならない場合）、競技運営委員会管理チームの承認のもとに、第2段階の評価と採点が行われる。採点チームは、いかなる状況でも同国人の採点をしないよう手配される。（4.6を参照）

4.6 ジャッジメントによる評価と採点

ジャッジメント（判定）には0から3の数字を用いる。厳密に一貫性を保った尺度を適用するため、以下を用いて判定する。

- 評価細目ごとの詳細なガイダンスのためのベンチマーク（基準）（文章、画像、事例品、あるいは個別のガイダンス注釈）。これは、基準および評価ガイド内に記述されている。
- 0～3の数字の指標：
 - 0：業界水準以下の実技
 - 1：業界水準を満足する実技
 - 2：業界水準を満足しており、特定の分野においては業界水準を上回る実技
 - 3：全体的に業界水準を上回り、優秀と判断される実技

3人のエキスパートが、通常は同時に各評価細目を判定し、得点を記録する。4人目のエキスパートは、採点を調整および監視し、それらの妥当性を確認する。また彼らは、同国選手の採点を防止するために、必要な場合には判定員としての役割を果たす。

4.7 メジャメントによる評価と採点

通常、3人のエキスパートが各評価細目の評価を行い、4人目のエキスパートが監督する。状況によっては、二重採点のためにチームを2組のペアとして構成する場合がある。特に規定のない場合には、最高点または0点が付与される。点数を細分化する場合は、その採点に関するベンチマークを評価細目ごとに明確に定義すること。計算または送信のエラーを回避するためCISには多数の自動計算オプションが用意されており、その使用が義務付けられている。

4.8 メジャメントとジャッジメントの使用

基準の選択および評価方法に関する決定は、職種競技を設計する過程で、採点スキームと競技課題を通して行うこと。

4.9 職種の評価戦略と手順

ワールドスキルズは継続的な改善に取り組んでおり、それは過去における制限の振り返りや良い慣行を築くことを含む。下記に記す本職種競技の評価戦略と手順は、上記を考慮し、採点プロセスの管理方法について述べる。

評価基準(Assessment Criteria)は、特定の採点がどのように、またなぜ与えられるのかを正確に説明する、明確かつ簡潔な評価細目(Aspect)の仕様である。

- 評価基準ごとに、最大10項目の評価細目を定めなければならない。
- メジャメント（測定）と寸法の評価細目は、セクションB、C、D、E、およびFのメジャメントの評価細目と同様である。

評価基準A-作業現場の安全性

評価基準B-緑地のレイアウト

評価基準C-舗装

評価基準D-壁と階段

評価基準E-水景施設

評価基準F-木造構造物

評価基準G-全体的な印象

採点の流れ

採点チームは、特定のメジャメント採点を行うために個々に指定される。ジャッジメント（判定）採点用に、記述語（文の説明要素となる単語またはフレーズ）が開発、実装されている。独立した専門の採点チームが、測定計画に記載の通りに、競技課題のメジャメント採点を行う。

- メジャメントとジャッジメントの採点は、採点スキームに従って行われる。
- 各評価基準は、競技課題の完成時点での採点を現実的に可能とするものであること。または習熟期間内にチーフ・エキスパートより明確な時間枠が与えられる場合、評価される評価点を大会中に選定できる。
- 評価基準に関連する公差は、業界標準を反映させたものでなければならない。
- 評点は当該大会の採点スキームによって異なることがあるが、技能五輪国際大会の職業基準における相対的重要度に準じるものとする。
- それぞれの評価基準において、エキスパート採点チームには、経験、文化、言語および出身大陸が異なる者を配分する。この要件は、評価プロセスにおける公平性、公正性、透明性を保証するものである。
- 1つのエキスパート採点チームは、すべての選手に対して似た評価細目を採点する。
- 各エキスパートは、可能な限り、評価基準の同じ割合を採点する。

5 競技課題

5.1 一般的な説明

3（評価戦略と仕様）および4（採点スキーム）では、競技課題の開発について規定している。以下の記述は補足である。

競技課題は、それが単体のものでも、複数の独立または関連したモジュールの集合体でも、WSOSの各セクションで規定された応用知識、技能、および振舞いに対する評価を可能とすること。

競技課題の目的は、WSOSを通して十分に、均衡が取れ、かつ真正な評価と採点の機会を、採点スキームと連動ながら提供することである。競技課題と採点スキームおよびWSOSの関係性が、品質における重要な指標となる。実際の作業パフォーマンスとの関係性についても同様である。

競技課題は、2（ワールドスキルズ職業基準）で示された状況以外では、WSOSの範囲外の領域をカバーしたり、WSOS内の評点のバランスに影響を与えることはない。この職種定義では、WSOSに関係する全範囲の評価をサポートするため、競技課題の性質に影響を与えるいかなる問題についても記載する。2.1を参照のこと。

競技課題は、実際の作業における応用を通してのみ、知識および理解を評価することができる。競技課題は、ワールドスキルズの規則と規制に関する知識を評価するものではない。

現在、ほとんどの競技課題（および採点スキーム）は、エキスパートから独立して設計および開発されている。これらは、職種競技マネージャまたは独立した競技課題開発者によって、通常は大会開催12か月前から設計および開発される。それらは、独立した検討、検証、および妥当性確認の対象となる。（4.1を参照）

以下に提示する情報は、この職種定義の完成時点で判明している内容および機密保持要件の対象となるものである。

詳細については、最新版の競技規則を参照すること。

5.2 技課題の形式/構造

競技課題は、段階的に評価される単一の競技課題である。

5.3 競技課題の設計要件

競技課題は、基礎となる職務の目的、構造、プロセス、結果を反映すること。また、その職務の小規模バージョンを目標とする。実用性に注視する前に、SMTはセクション5.1に記載のとおり、その競技課題が、WSOSにおいて包括的で、バランスの取れた、正真正銘の評価採点を提供していること示すこと。

- 競技課題は、30 m²以上50 m²以下のスペースを対象に施工するものとする。競技課題では、承認済みの計画図と仕様書に基づいて支給される天然の石、コンクリート、木材および/またはプラスチック材、土壌、ローン、植物などの様々な材料を使って小規模庭園の造園工事を行う。
- 競技課題は以下の造園要素のいくつかまたは全てを盛り込む

- 舗装および/またはその他の表面施工
- 壁、土止めおよび/またはその他の自立壁

- 階段および/または踏み板
- 木造構造物または類似のもの
- 水景施設。

独立した競技課題考案者は、現地で入手可能な材料を使用する必要がある。これらは、評価基準（の項目）の作成時に考慮される。

競技課題は、大会開催組織から選手に与えられる時間枠、材料と工具の範囲内で作成できなければならない

5.4 競技課題の調整と開発

競技課題は、必ずワールドスキルズインターナショナルが提供するテンプレートを用いて提出すること (www.worldskills.org/expertcentre)。テキスト文書にはWordテンプレートを、図面にはDWGテンプレートを使用すること。

5.4.1 競技課題の調整（技能競技大会の準備）

競技課題の調整は、SCMが行う。

5.4.2 競技課題/モジュールの開発者

競技課題/モジュールは、独立した競技課題考案者（ITPD）が職種競技マネージャと協力して作成する。

5.4.3 競技課題の開発時期

競技課題/モジュールは以下のタイムラインに従って開発される。

時期	実施内容
大会開催15か月前	ITPDが特定され、WSIとITPDの間で秘密保持契約が締結される。
大会開催3ヶ月前	競技課題/モジュールについての大会前情報が、ワールドスキルズのウェブサイトで開催される。 ワークショップ・マネージャは、選手が競技課題の完成のために持参する必要がある手工具を提案する。 詳細なインフラリスト（種類、写真、植物種など）
遅くとも大会開催の2ヶ月前まで	競技課題が技能五輪国際大会運営マネージャに送られる。
大会開催4日前	競技課題/モジュール、図面、仕様書がエキスパートに提示される。
大会開催2日前	競技課題/モジュール、図面と仕様が選手に提示される。

5.5 競技課題の初期検討および検証

競技課題の目的は、特定の職業における傑出した実践者の作業生活を真に象徴するように、選手へ

の課題を作成することである。これにより、競技課題は採点スキームを適用し、WSOSを完全に代表することとなる。この意味で、競技課題はその文脈、目的、行動、および期待において特有なものである。

競技課題の設計と開発をサポートするために、厳密な品質保証と設計プロセスが実施されている（競技規則の10.6-10.7を参照）。ワールドスキルズによって承認されると、独立した競技課題考案者（ITPD）は競技課題の妥当性確認に先立って、ITPDのアイデアと計画に対する初期的な検討を行い、続いて競技課題を検証するための1人以上の独立した専門家で、かつ信頼できる個人を特定することが求められる。

職種アドバイザーは、この手配を確実に調整し、競技規則の10.7を支えるリスク分析に基づいて、初期検討および検証の双方の適時性と完全性を保証する。

5.6 競技課題の妥当性確認

職種競技マネージャは、妥当性確認に関する調整を行い、競技課題/モジュールが選手の材料、機材、知識、および時間の制約内で完了できることを保証する。

5.7 競技課題の公開

競技課題/モジュールは、技能競技大会以前には公開されない。競技課題/モジュールは、エキスパートに対しては大会開催4日前に、選手に対しては大会開催2日前に提示される。

一般的な選手の競技会前情報は、大会開催3か月前にワールドスキルズのWebサイトで公開される。

競技課題/モジュールに関する技術情報や詳細情報は共有されない。

5.8 競技課題の変更

競技課題は独立した競技課題考案者（ITPD）によって作成されるため、技能競技大会で競技課題/モジュールに変更を加える必要はない。ただし、競技課題文書の技術的エラーとインフラの制約から生じる修正は除く。

5.9 材料または製造業者の仕様

選手が競技課題を完了するために必要となる特定の材料および（または）製造者の仕様は、大会開催組織より提供され、エキスパートセンターにあるリンクwww.worldskills.org/infrastructureより入手できる。ただし、特定の材料および/または製造者仕様の詳細は秘密にされている場合があり、技能競技大会前に公開されない場合があることに注意すること。そのような物の中には、故障診断モジュールや公開されていないモジュールの物品が含まれる場合がある。

6 職種管理および情報伝達

6.1 ディスカッションフォーラム

技能競技大会に先立つ職種競技に関する議論、情報伝達、協力および意思決定の全ては、職種限定のディスカッションフォーラムで実施すること (<http://forums.worldskills.org>)。職種に関連する決定および情報伝達は、フォーラムで実行された場合のみ有効とする。チーフエキスパート（またはチーフエキスパートが指名したエキスパート）が、このフォーラムの進行役となる。情報伝達に関するタイムラインおよび職種競技開発の要件については、競技規則を参照のこと。

6.2 選手の情報入手

大会登録された選手のための情報はすべて、選手センター (www.worldskills.org/competitorcentre) から入手できる。

入手可能な情報は以下の通り

- 競技規則
- 職種定義
- 採点集計様式（該当する場合）
- 競技課題（該当する場合）
- インフラリスト
- ワールドスキルズ安全衛生および環境に関する方針と規制
- その他の技能競技大会関連の情報

6.3 競技課題および採点スキーム

公開中の競技課題は、www.worldskills.org/testprojects および選手センター (www.worldskills.org/competitorcentre) から入手できる。

6.4 大会期間中の各日の職種管理

技能競技大会中の日々の職種の管理は、SCM（職種競技マネージャ）が指揮する職種管理チームが作成した職種管理計画に定められている。職種管理チームは、SCM（職種競技マネージャ）、チーフエキスパートおよび副チーフエキスパートで構成される。職種管理計画は技能競技大会の6ヶ月前から順次作成され、大会時に最終決定される。職種管理計画はエキスパートセンター (<http://www.worldskills.org/expertcentre>) で閲覧することができる。

6.5 一般的な最良事例の手順

一般的な最良事例の手順では、最良事例の手順と職種限定規則（9）の違いを明確に説明する。一般的な最良事例の手順は、（倫理行動規程罰則システムを含む問題および紛争解決手順の一部として罰則が適用されるであろう）競技規則または職種限定規則への違反として、エキスパートおよび選手が責任を課されてはならないものである。場合により、選手に向けた一般的な最良事例の手順が

採点スキームに反映されることもある。

トピック/タスク 最良事例の手順	
通訳者のメモ取り	<ul style="list-style-type: none"> 通訳者は、訳出に必要な場合、エキスパート会議中にメモを取ることができる。会議終了後、すべてのメモをチーフ・エキスパートに渡さなければならない。
選手のメモ取り	<ul style="list-style-type: none"> 選手は、職種競技マネージャ、チーフ・エキスパートによる競技課題の説明中にメモを取ることができる。選手が自分たちだけで競技課題の作業を行っている場合はメモを取ることができる。すべてのメモは、競技第4日目の職種競技が終了するまでワークショップ（各職種競技場）に置いておかななければならない。

7 職種限定の安全要件

7.1 個人の保護具

開催国/地域の規約の情報として、ワールドスキルズ安全衛生および環境に関する方針と規制を参照すること。

各課題に対して、安全要求事項計画を立案し、さらに、危険な材料、工具および作業プロセスをこれらの危険分析者が審査する危険分析も実施しなければならない。PPE（個人用防護具）要求事項に関してはワークショップ・マネージャの合意を得なければならない。

タスク	保護メガネ	つま先が閉じ、ヒールのない丈夫な靴	防塵マスク	手袋	保護キャップ付き安全靴	作業着（長ズボン、長袖または半袖のスリープシャツ-背中や肩が見えないもの	聴覚保護具	ニーパッド
安全なエリアでの一般的な保護具	✓	✓						
土壌または下地の取り扱い	✓		✓	✓	✓	✓		
土の締め固め	✓			✓	✓	✓		
天然石の鋸引き	✓		✓	✓	✓	✓	✓	
木材の鋸引き	✓		✓	✓	✓	✓	✓	
ドリルでの木材の穴開け	✓		✓		✓	✓	✓	✓
天然石の切断	✓		✓	ノミ（手工具のみ） ハンマー不要	✓	✓	✓	✓
踏み石と天然石の敷設	✓			✓	✓	✓		✓
石畳用の石の敷設	✓			✓	✓	✓		✓

タスク	保護メガネ	つま先が閉じ、ヒールのない丈夫な靴	防塵マスク	手袋	保護キャップ付き安全靴	作業着（長ズボン、長袖または半袖のスリーブシャツ-背中や肩が見えないもの	聴覚保護具	ニーパッド
水平面の整備	✓			✓	✓	✓		
植栽作業	✓			✓	✓	✓		ひざまずくとき

8 材料および機材

8.1 インフラリスト

インフラリストには、大会開催組織が提供するすべての機材、材料、設備の詳細が記載されている。

インフラリストは、www.worldskills.org/infrastructureで入手可能である。

インフラリストには、次回の技能競技大会に向けて職種管理チームが要求した品目と数量が記載されている。大会開催組織は、物品の実際の数量、タイプ、ブランド、モデルを明記したインフラリストを順次更新する。**特定の材料および／または製造元の仕様の詳細は秘密にされている場合があります、技能競技大会の前に公開されない場合があることに注意すること。**そのような物の中には、故障診断モジュールや公開されていないモジュールの詳細が含まれる場合がある。

各技能競技大会において、職種管理チームは、次回の技能競技大会に備えたインフラリストの検討と更新を行わなければならない。職種競技マネージャは、スペースおよび／または機材の増加がある場合は必ず、技能競技大会ディレクターに報告しなければならない。

各技能競技大会において、技術オブザーバーは、その技能競技大会で使用されるインフラリストを監査する必要がある。

インフラリストには、選手および／またはエキスパートが持参する必要のある品目や選手の持参が禁止されている品目は含まれない。これらの品目は以下に記載する。

8.2 選手の工具箱

選手は、習熟日に1つ以上の手荷物を持ち込むことができるが、総外容積は0.048m³を超えないものとする。

(容積＝長さ×高さ×幅、または $V=L \times H \times W$)

8.3 選手が持参する材料・機材・工具

荷物に入れて持ち込めるものは以下の通り：

- エキスパート陣は、競技課題に関する説明会の1ヶ月後に、ディスカッション・フォーラムにツール一覧リストを投稿するものとする。
- 当リストはすべてを網羅したものではない。

さらに選手は、セクション7の職種限定の安全要求事項で指定されているように、自身の個人用防護具を準備する必要がある。

8.4 エキスパートが持参する材料・機材・工具

セクション7. 職種限定の安全要件に記載のとおり、エキスパートは自身の保護具を持参する必要がある。

エキスパートは、通訳者の保護具の持参にも責任を負うこと。

8.5 職種エリアで禁止されている材料・機材

選手及びエキスパートは、セクション8.3と8.4に記載のないいかなる材料・機材も持参してはならない。

建築用木材を競技エリアに持ち込むことは禁止されている。測定に使用するサステナブルな木材（Threated、PWC、Durawoodなど）は許可されている。

必要な安全規則を満たさない材料と装置（機材）の持ち込みは禁止。アングルカッターは禁止。すべての電動工具の持ち込みは禁止（大会開催組織が提供する）。

8.6 ワークショップおよびワークステーションのレイアウト案

過去大会におけるワークショップのレイアウトは、www.worldskills.org/sitelayoutで入手できる。

ワークショップレイアウトの例



9 職種限定規則

9.1 一般的な説明

職種限定規則は競技規則と矛盾があってはならず、競技規則より優先されてはならない。職種限定規則は職種競技によって異なるであろう分野において具体的詳細を示し、明確にする。これは、個々のIT機器、データ記憶装置、インターネットアクセス、手順やワークフロー、文書管理や配布を含むが、その限りではない。これらの規則に対する違反は、倫理行動規程罰則システムを含む、問題および紛争解決の手順に従って解決される。

9.2 職種限定規則

トピック/タスク	職種限定規則
テクノロジーの活用- USB、メモリースティック	<ul style="list-style-type: none"> 選手は、メモリースティックをワークショップ（各職種競技場）に持ち込んで서는ならない。これらの物品をワークショップに持ち込む場合は、各競技日が終了するまで個人ロッカーに施錠保管しなければならない。 職種競技マネージャ、チーフ・エキスパート、エキスパートおよび通訳者は、ワークショップへのメモリースティックの持ち込みが許可されている。
テクノロジーの使用 - 個人用ノートパソコン、タブレットおよび携帯電話	<ul style="list-style-type: none"> 選手は個人のノートパソコン、タブレット、携帯電話をワークショップに持ち込むことはできない。これらの物品をワークショップに持ち込む場合は、各競技日が終了するまで個人ロッカーに施錠保管しなければならない。 職種競技マネージャ、チーフ・エキスパート、エキスパートおよび通訳者は、個人のノートパソコン、タブレットまたは携帯電話をワークショップに持ち込んで使用することができる。
テクノロジーの使用-個人の 写真・動画撮影用 デバイス	<ul style="list-style-type: none"> 職種競技マネージャ、チーフ・エキスパート、エキスパート、選手および通訳者は、ワークショップで個人の写真・動画撮影用デバイスを使用することができる。
テンプレート、補助器具 等	<ul style="list-style-type: none"> 選手は、簡単な型板や補助器具を持ち込み、使用することができる。 これらのアイテムは、競技第1日目から競技第4日目の技能競技大会中にも製作することができる。 持ち込まれた、または製作されたこれらのアイテムは、指定されたエキスパートグループのチェックを経てから使用が許される。
図面、情報の記録	<ul style="list-style-type: none"> 選手、エキスパートと通訳者は競技第4日目の技能競技大会終了時までワークショップから図面または記録した情報を持ち出してはならない。 職種競技マネージャとチーフ・エキスパートにはこの規則は適用されない。

10 エキスパートの知識と経験

10.1 要件

本職種のエキスパートは、**セクション1.1.2**に記載されているとおり、適切な職務または業務の実施において、下記の知識と経験を有する必要がある。

このセクションはWSC2026に向けて現在作成中である。

11 来場者とマスコミに対する職種の広報活動

11.1 広報活動の方法

来場者とマスコミに対する職種の広報活動が最大限に見込める方法を以下に挙げる。

- 技能体験-もっと多くの人に参加して体験（自分の手を使う）してもらう必要あり
- ディスプレイ画面
- 競技課題の説明、計画および図面
- 選手の活動に対する理解の促進
- 選手のプロフィールの紹介
- 就業機会の情報提供
- 競技状況の日毎の掲示
- 「ベスト・ガーデン」の来場者投票
- この職種スキル（技能）のマーケティングにおいては、グリーンシティコンセプトと持続可能な造園について明確にしなければならない。
 - <http://thegreencity.com/>
 - [https://en.wikipedia.org/wiki/Sustainable_gardening.](https://en.wikipedia.org/wiki/Sustainable_gardening)

12 持続可能性

12.1 持続可能な実践活動

本職種競技では以下の持続可能な実践活動を重視する。

- 職種競技後の材料リサイクル、またはリサイクル材料の使用
- グリーン材料とグリーン技術の使用
- 完成した競技課題（または構成部品）の技能競技大会後の再利用
- 職種競技における競技課題の環境への影響と、実生活において考えられる影響について説明し、評価すべきである。造園によって多くの環境問題が解決する（可能性がある）ことを人々に理解してもらう必要がある。
- ケータリングにおいても使い捨てプラスチック製品の使用を避ける。

13 産業界との協議に関する情報

13.1 一般的な説明

ワールドスキルズは、ワールドスキルズ職業基準において、産業界およびビジネスにおいて国際的に認められた最良事例のダイナミズムが完全に反映されるように保障することをコミットしている。そのために、ワールドスキルズは、2年周期で、関連する職業の役割についての説明案およびワールドスキルズ職業基準に対するフィードバックが提供できる、世界中の多くの組織にアプローチを行っている。

並行して、WSIは、3つの国際職業分類とデータベースを利用している。

- ISCO-08: (<http://www.ilo.org/public/english/bureau/stat/isco/isco08/>)
- ESCO: (<https://ec.europa.eu/esco/portal/home>)
- O*NET OnLine (www.onetonline.org/)

13.2 参考情報

このWSOS（セクション2）は、造園師に最も密接に関連していると考えられる：

<http://data.europa.eu/esco/occupation/1009be17-7efd-45f1-a033-566bf179c588>

O*net：基本的または監督的役割を担う。 <https://www.onetonline.org/link/summary/37-3011.00>

関連する職業もこれらのリンクから調べることができる。

ILO 6113

以下の表は、技能五輪国際大会（2026年上海）に向け、関連する職業の役割の説明とワールドスキルズ職業基準について打診され、有益なフィードバックを提供した組織を示す。

組織	連絡先氏名
ジャルダン・スイス、スイス園芸家協会	Stefan Haus、造園部門長

14 付録

14.1 付録情報

該当なし。